税金のムダ使いを正すために、積極的な提案

18年度企業会計決算特別委員会

村上かずしげ

十月二日から五日まで、企業会計決算特別委員会の集中審議が行われました。

企業会計とは、病院や上下水道、港湾など市の事業でありながら利益を上げ、独立採算で会計処理をしている会計のことをさします。審議は領収書などの証票類の調査と各課担当者からの聞き取りの書類審査と、理事者への質疑との組み合わせですすめられます。村上議員は委員長に選出されましたので、理事者への質問はできませんでしたが、書類審査の中で、無駄遣いを正すための調査と提案を行いました。

コンテナ用クレーン、使用料収入は借金払いに遠く及ばず

[redacted]

西港にコンテナ用のクレーン（ジブクレーン）が一四年度に造られましたが、使用料収入では建設費用を全くまかなえていないことが分かりました。クレーン建造にかかった借金は、元利あわせて三・六億円、一年間の使用料収入は一千万円台で、返済額の三分の一程度です。それだけ利用している企業に便宜をはかっているという証拠です。

ジブクレーンの借金払いと使用料収入

(単位　千円)

年度	返済額	使用料収入	収支差
14	0	5,850	5,850
15	27,780	10,686	-17,094
16	27,790	16,172	-11,618
17	38,084	12,870	-25,214
18	38,084	13,884	-24,200
19	38,084		
20	38,083		
21	38,084		
22	38,084		
23	38,083		
24	38,084		
合計	360,240		

このまま、ジブクレーンを動かしていても黒字にはなりようもありません。高性能のガントリークレーン導入計画も頓挫し港湾会計も、ため息まじりなのでしょうか。

下水道、34年度に累積赤字解消」？

一八年度、八億円近い黒字となった下水道会計、しかし、累積収支不足八〇億円が残っています。

市は黒字基調が続き、三四年度には累積赤字もゼロになるので心配ないと説明してきました。しかし、市の説明は根拠のない前提に立った試算だったことがはっきりしました。

まず第一は、釧路市の人口減少を全く考えていないのです。二九年の人口は一六万人を割り、三四年には、おそらく一五万人そこそこになるでしょう。それなのに、料金収入は、三千万円しか減らないことになっています。

もうひとつは耐震診断の結果です。古川・白樺などの処理場の耐震不足が心配です。二二年度に、その結果がはっきりしますが、相当数の施設が耐震強度不足と判定され、多額の補強工事が必要となります。そのお金も見込んでいません。

これでは、「下水道会計は大丈夫」との市の説明も、鵜呑みにはできません。

委員長としてのひと言

今委員会の一番の質問は、港湾業務の委託先である西港開発埠頭の部長職に市の元港湾部長が天下りした問題を取り上げた梅津さんの質問でした。わざわざ新設のポストをつくっての天下り。港湾担当参事は、「西港開発埠頭の新事業を展開するための採用」と答弁しながら、何をやるのかと聞かれると「まだ、決まってない」と珍答弁。一方、市長は「職員の管理・監督が仕事と聞いている」と全く別の答弁をする始末。結局、仕事の内容もはっきりないのに、天下りポストを一つ増やしたということなのでしょうか。

それにしても、いつものことながら一回も質問しない議員がいるのは残念です。今回も、公明、自民党の一人、阿寒選出議員、市政クラブ議員は一度の質疑もなし。四日間の集中審議で、聞くことは一つもなかったのでしょうか。

村上通信　0?年 10月 14日
発行　村上和繁
TEL 23-5212 市議団控室